

## ダニエルの書 - ナンバー128

キリストの洗礼と誘惑の預言的意義：三つの世界勢力の特質を解き明かす

Jeff Pippenger

2024-03-10

封印の働きは、2001年9月11日、黙示録18章の力強い御使いが降臨したときに始まった。その降臨は、1840年8月11日に黙示録10章の御使いが降臨したこと、またキリストの洗礼における聖霊の降臨によっても予表されていた。キリストの洗礼は、ニューヨーク市の巨大な建物が倒されたときに後の雨が降ることを指し示している。上からの力が働き始め、また同時に、その時には下からの力（底知れぬ穴）も現れるはずである。神の言葉は決して失敗しないからである。

キリストが洗礼を受けると、ただちに荒野に入り、四十日間断食し、その後、サタンから三つの誘惑を受けた。これら三つの誘惑は、世界をハルマゲドンへと導く三つの勢力それぞれの主要な特質を表している。すなわち、竜の特質である高慢、獣の特質である食欲、そして偽預言者の特質である思い上がりであった。高慢と自己高ぶりは、イザヤ書の古典的な描写において、ルシファーによって象徴されている。

おお、暁の子ルシファーよ、いかにして天から落ちたのか。諸国を弱らせた者よ、いかにして地に切り倒されたのか。お前は心のうちで言った、「私は天に上ろう。神の星々の上に私の王座を高く置こう。私はまた会衆の山、北の果てに座ろう。雲の高みの上に上り、いと高き方のようになろう。」しかし、お前はよみに落とされ、穴の底へと下ろされる。お前を見る者は、お前をまじまじと見て、よく考え、こう言うだろう、「これが、大地を震えさせ、諸王国を揺るがしたあの人ののか。」イザヤ書  
14:12-16.

ルシファーは心の中で「私はこうしよう」と五度宣言する。かつて「光をもたらす者」（ルシファー）と呼ばれ、今や闇だけを帯びる者となったサタンこそ、「諸国を震わせた者」である。預言的に彼は「諸国」と結びつけられている。というのも、彼は諸国の邪悪な連合の指導者であり、また黙示録第十七章と第十八章で示されている商人の連合の指導者でもあるからである。

「王や支配者や総督らは、自らに反キリストの烙印を押し、聖徒-すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持つ者たち-と戦いを挑みに行く竜として表されている。」牧師たちへの証言、38.

キリストの洗礼のとき、聖霊が下り、それは2001年9月11日以後の時代を象徴していた。彼の洗礼の後、サタンは、世界の諸国を支配するために自らが用いている力をキリストに与えると持ちかけて、キリストを誘惑した。なぜなら、アダムの墮落のときに、サタンは世界の諸国の支配者となっていたからである。

そして悪魔は彼を高い山に連れて行き、一瞬のうちに世のすべての国々を彼に見せた。悪魔は彼に言った。「このすべての権威とその栄光を、私はあなたに与えよう。これらは私に渡されており、私は望む者に与えるのだ。だから、もしあなたが私を拝むな

ら、すべてがあなたのものになる。」イエスは答えて言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主にのみ仕えよ』と書いてある。」ルカ 4:5-8

教皇ローマ（獣）の二つの主な特徴は、彼女の淫行と、彼女が配る毒が仕込まれた「食物」や飲み物である。

それにもかかわらず、あなたにはいくつか責めるべきことがある。あなたは、自分を女預言者と称するあの女イゼベルを放任し、彼女が教え、わたしのしもべたちを惑わして淫行を行わせ、また偶像に供えた物を食べさせるのを許しているからである。黙示録 2:14

彼女が提供する「食物」と飲み物は、彼女の偽りの教義にほかならない。

バビロンに対して向けられている重大な罪は、彼女が「その淫行の怒りのぶどう酒を、すべての国々に飲ませた」ということである。彼女が世界に差し出すこの酔わせる杯は、地上の権力者たちと不義の関係を結んだ結果として彼女が受け入れた誤った教義を象徴している。『大いなる論争』、388。

カトリックの獣もまた、その魔術によって世界を惑わす。それはまたしても体内に取り込まれるものである。

また、灯火の光は、あなたのうちにはもはや二度と輝かない。花婿と花嫁の声も、あなたのうちにはもはや二度と聞こえない。というのは、あなたの商人たちは地の大いなる者たちであり、また、あなたの魔術によってすべての国々が惑わされたからである。黙示録 18:23

「sorceries」と訳されているギリシャ語はpharmakeiaで、薬剤（医薬）を意味する。彼女の手にある金の杯は、ぶどう酒を飲むための杯であるだけでなく、彼女の魔術的な医療用の薬剤が調べられ、供される杯でもあることを表している。現代の世界では、そうした魔法の薬は、杯よりもむしろ注射によって投与される。間もなく施行される日曜法の後にサタンが現れると、彼は癒やしの奇跡を行うだろう。ローマ教皇制の偽りの教義と薬剤に結びついたその奇跡は、サタンがキリストに石をパンに変える奇跡を行うよう言ったことで象徴されていた。

日曜法の前後における預言的歴史は、同じ特徴を備えている。米国での日曜法へと至る、アドベンチストに対する「獣の像」の試練の時期は、全世界に対する「獣の像」の試練の時期の型をなしている。だからこそ、「同じ危機が世界のあらゆる地域にいる私たちの民に臨む」と私たちに知らされているのである。

日曜法の後にサタンによって行われるサタンの癒しの奇跡は、2001年9月11日以降の歴史の中で人々に売りつけられてきたいわゆる医療の「魔術」を表している。イエスは「人はパンだけで生きるのではなく、神のあらゆる言葉によって生きる」と述べられた。ローマの「食物」とは、ローマが神の言葉よりも上に置く伝統と慣習である。

アメリカ合衆国において現在進行中の、教会の制度と慣習に国家の支持を確保しようとする諸運動において、プロテスタントはローマ教皇派の足跡をたどっている。いやそれどころか、彼らは、教皇制が旧世界で失った至上権をプロテスタントのアメリカ

で回復するための扉を開いている。そしてこの運動にいっそう重大な意味を与えているのは、そこで念頭に置かれている主たる目的が日曜遵守の強制であるという事実である。これはローマに起源をもち、ローマが自らの権威のしるしだと主張する慣習である。世の慣習に同調し、神の戒めよりも人間の伝統を尊ぶという—教皇制の精神—が、プロテスタント諸教会に浸透し、かつて教皇制が既に行ってきたのと同じく日曜を高く掲げる働きを彼らにさせているのである。

伝統と慣習は、獣が神の御言葉の代わりに据える教義的な「糧」であり、自らの異教的な偶像崇拜を高く掲げるためである。

ローマ教会が偶像崇拜の罪の告発をどのようにして免れうるのか、私たちにはわからない。確かに、ローマ教会はこれらの像を通して神を礼拝していると公言する。イスラエルの民も黄金の子牛の前にひれ伏したとき、同じことをした。しかし主の怒りは彼らに燃え上がり、多くの者が打ち殺された。神は彼らを不敬虔な偶像崇拜者であると宣告し、そして今日も、聖徒やいわゆる聖人の像を崇拜する者たちに対して、天の書に同じ記録が記されている。

そして、これこそが、プロテスタントがいまや大いに好意を寄せはじめ、やがてプロテスタント主義と連合することになる宗教である。とはいえ、この連合はカトリックが変わることによって実現するのではない。というのも、ローマは決して変わらないからである。ローマは自らの無謬性を主張している。変わるのはプロテスタント主義のほうだ。自由主義的な理念を取り入れることによって、それはカトリックと手を結べるところまで導かれるのである。「聖書、聖書こそ、私たちの信仰の土台だ」—これがルターの時代のプロテスタントの叫びであった。他方カトリックは「教父、慣習、伝統」と叫んだ。ところが今や多くのプロテスタントは、自分たちの教義を聖書から立証することが難しいと感じており、それでいて十字架を伴う真理を受け入れるだけの道徳的勇気がない。ゆえに彼らは急速にカトリックの立場へ近づき、真理を回避するために持てる最良の論拠を用いて、教父たちの証言や、慣習や人間の戒めを引き合いに出している。そう、十九世紀のプロテスタントは、聖書に対する不信仰において、急速にカトリックに近づいている。しかし今日においても、ローマと、ルター、クランマー、リドリー、フーパー、そして高貴な殉教者の群れに代表されるプロテスタント主義とのあいだには、これらの人々がプロテスタントという名の由来となったあの抗議を行った当時と同じだけの深い隔りがある。

「キリストはプロテスタントであった。彼は、自分たちに対する神の御旨を退けたユダヤ民族の形式的な礼拝に抗議された。彼は、彼らが人間の戒めを教義として教え、見せかけの者であり偽善者であると言われた。白く塗られた墓のように、彼らは外見は美しいが、内側は汚れと腐敗に満ちていた。改革者たちの起源はキリストと使徒たちにさかのぼる。彼らは形と儀式の宗教から出て、そこから分離した。ルターとその追隨者たちが改革された信仰を作り出したのではない。彼らは、それをキリストと使徒たちによって示されたとおりに、ただ受け入れただけである。聖書は私たちに十分な指針として与えられている。しかし、教皇とその働き人たちは、それが彼らの見せかけを暴き、彼らの偶像礼拝を戒めるがゆえに、まるで呪いであるかのようにそれを人々から取り上げる。」 レビュー・アンド・ヘラルド、1886年6月1日。

心霊主義の基礎をなす癒しの奇跡は、彼女の得意とするところだ。

多くの人は、靈的現象を、靈媒による詐欺や手品にすべて帰して説明しようと努めている。確かに、詐術の産物が本物の現象としてしばしば通用させられてきたのは事実だが、同時に、超自然的な力の顕著な現れもあった。近代心霊主義の発端となった神秘的なラップ音は、人間的な策略や狡知の結果ではなく、悪天使の直接の働きであり、こうして魂を滅ぼす最も成功した欺瞞の一つが導入されたのである。心霊主義は単なる人間の詐欺行為にすぎないと信じることによって、多くの人が罠にかかるだろう。超自然的と認めざるを得ない現象と直面するとき、彼らは欺かれ、それを神の大いなる力として受け入れるよう導かれてしまうだろう。

こうした人々は、サタンとその手先によって行われた驚くべき業についての聖書の証言を見落としている。ファラオの魔術師たちが神の業を偽って再現できたのは、サタンの助けによってであった。パウロは、キリストの再臨に先立って、同様のサタンの力の現れがあると証言している。主の来臨に先だって、「サタンの働きによって、あらゆる力としるしと偽りの不思議、また不義のあらゆる欺きをもって」行われることが予告されている。テサロニケ人への第二の手紙 2:9, 10. さらに使徒ヨハネは、終わりの日に現れる奇跡を行う力について記し、次のように述べている。「彼は大いなるしるしを行い、人々の見ている前で、天から火を地上に降らせる。また、彼に与えられた力によって行うその奇跡によって、地に住む者たちを惑わす。」ヨハネの黙示録 13:13, 14. ここで予告されているのは、単なるいかさまではない。人々は、サタンの手先たちが実際に行う力をもって成し得る奇跡によって惑わされるのであって、彼らが行うふりをする奇跡によってではない。大争闘、553.

風習や伝統に基づいて築かれた偽りの教義、心霊主義的な奇跡の現れ、偽の医療産業、そして教会権力と国家権力の連合は、すべてカトリックの獣の属性である。高慢は竜の勢力の特徴である。思い上がりは、背教的プロテスタンティズムの偽預言者の特徴である。

イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰り、聖霊に導かれて荒野へ行き、四十日のあいだ悪魔に試みられた。その間、何も食わず、日数が終わると空腹になった。悪魔は彼に言った。「もしあなたが神の子なら、この石にパンになれと命じなさい。」イエスは答えて言った。「こう書いてある。『人はパンだけで生きるのではなく、神のすべての言葉によって生きる。』」ルカ 4:1-4

Presumptionは、十分な証拠や証明がないまま何かを真実だと仮定する行為、またはその事例を指す名詞である。これは、不完全または不十分な情報に基づいて判断を下したり結論を導いたりすることを伴う。Presumptionは、たとえそれが完全には正当化されない場合でも、自分の仮定に一定の確信を伴っていることを示唆することもある。

背教的なプロテスタントは、神の御言葉からその誤った考えを裏づけるいかなる証拠もないのに、日曜日を神の礼拝の日として受け入れている。しかも彼らは、自分たちはプロテスタントであり、その標語は「神の御言葉のみ」、すなわちマルティン・ルターが宣言した「Sola Scriptura!」であると知りつつ公言しながら、なおそうしている。彼らはそれを、ローマ教会の伝統や慣習に基づいて、あるいは単に父祖から受け継いだものとして受け入れることを選んでいる。第三の天使の大いなる叫びのとき、聖書から示しうる太陽を礼拝することの正当化の根拠は全く存在しないという真理が明らかにされ、なおその誤った思い込みにとどまり続ける者たちは、獣の刻印を受けることになる。

もし真理の光があなたに示され、第四の戒めの安息日が明らかにされ、また日曜日遵守には神の御言葉に何の根拠もないことが示されているのに、なおも偽りの安息日に固執し、神が「わが聖なる日」と呼ばれる安息日を聖別することを拒むなら、あなたは獣の印を受ける。これはいつ起こるのか。－あなたが、日曜日に労働をやめて神を礼拝するよう命じる布告に従うときである。聖書のどこにも日曜日が普通の労働日以外のものであることを示す言葉は一つもないと知りながら、あなたは獣の印を受けることに同意し、神の印を拒むのである。もし私たちがこの印を額や手に受けるなら、不従順な者に宣告された裁きが必ず私たちの上に下る。しかし、生ける神の印は、良心に従って主の安息日を守る者たちに押される。Review and Herald, 1911年4月27日。

共和党の一般に認識されている弱点は、民主党のもたらす結果が彼らが偽りの父の子らであることを明確に示しているにもかかわらず、政敵が公正で誠実だとみなす傾向にあることだ。共和党は、一貫して繰り返し、相手が決して約束を守らないことを何度も思い知らされてきたにもかかわらず、政敵の言葉をそのまま信じてしまう。共和党が相手に誠実さと高潔さを期待するというその誤った見積もりを支える合理的な根拠を、相手は繰り返し何一つ示してこなかったにもかかわらず、彼らは相手の動機を誠実なものだと善意に解釈してしまう。もちろん、個人的な金銭的利益のために、あるいは容易に操られる原因となる秘められた不道德な事情のために、原則を貫くことを拒む共和党員が少なくないのも事実だ。だが、共和党の主要な預言的特質は、思い込みである。

背教的なプロテスタントに預言的に示されている思い上がりという性質こそが、実際には政治的対立者が約束を守るという空疎な期待のもとで自らの市民的責任を放棄しているにもかかわらず、彼らに道徳的にも政治的にも優位に立っているかのように装わせるのである。狂気のごく一般的な定義は、異なる結果を期待しながら同じことを何度も繰り返すことだが、それでも共和党は、トランプへの憎悪に表れているように、狂気に侵されているのは民主党のほうだと主張する。

それでも共和党の狂気は、彼らが妥協に応じるたびに繰り返し示される。妥協は立法過程の働きであるという前提のもとに彼らは妥協するが、彼らが「立法過程」の原則に基づく主張とその政治的妥協は、決して妥協しない陣営を相手に行われるのだ。民主党が政治過程で譲歩するのは、数の上で自分たちに不利に完全に縛られているときだけだ。彼らが政治過程で本当に中間点を追求してきた証拠はない。共和党の狂気とは、全く根拠のない他者への楽観的な期待を繰り返し抱くことにある。

ドナルド・トランプを支持する人々の圧倒的多数は、トランプの最悪の資質は、自身のアジェンダの支持者として男たちを受け入れることをいとわない点にあると証言するだろう。しかし、入手可能な証拠は、そのような選択をしたのはトランプの側の全くの思い上がりに過ぎなかったことを示している。思い上がりは、背教したプロテスタント主義の預言的な特質である。サタンは聖書を引用してキリストを誘惑したが、そうすることで、その箇所をゆがめ、根拠のない聖書に反する試みへと変えてしまった。

彼をエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立たせて言った。「もしあなたが神の子なら、ここから身を投げ下ろしなさい。なぜなら、こう書いてあるからだ。『彼はあなたを守るよう、その御使いたちに命じられる。彼らはその手であなたを支え、あなたの足が石に打ち当たってつまづくことのないように。』」イエスは答えて言われた。「『

あなたの神である主を試みてはならない』と言われている。」ルカ 4:9-12

間もなく施行される日曜法の際には、安息日に労働を休めという聖書の命令を取り上げ、七日目の安息日に神を礼拝せよという戒めを、実は異教の太陽の日こそ人が礼拝すべき日だとするでっち上げの命令へとねじ曲げるのは、アメリカ合衆国のプロテスタントである。彼らは聖書の一節を、不当で聖書に反する試金石へとねじ曲げるだろう。

次の記事でこの研究を続けます。

私は、二本の角を持つ獣が竜の口を持ち、その力はその頭にあり、その口から布告が発せられるのを見た。次いで私は淫婦たちの母を見た。母は娘たちではなく、彼女たちとは別個で、明確に区別されていた。彼女の時はすでに過ぎ去り、その娘たち、すなわちプロテスタントの諸宗派が次に舞台に上がり、母が聖徒たちを迫害したときと同じ精神を行動に移した。私は、母の権勢が衰えるにつれて娘たちが成長してきており、やがて彼女らはかつて母が振るった力を行使するようになるのを見た。

私は、名ばかりの教会と名ばかりのアドベンチストが、ユダのように、真理に敵対するためにカトリックの影響力を取りつけようとして、私たちをカトリック側に売り渡すのを見た。そのとき聖徒たちは目立たない民となり、カトリックにはほとんど知られていない。しかし、私たちの信仰と慣習を知っている教会や名ばかりのアドベンチスト（彼らは安息日のゆえに私たちを憎み、それを反駁できなかったからである）が、聖徒たちを裏切り、彼らは人々の制度をないがしろにする者だ、すなわち安息日を守り、日曜日を無視している者だとカトリックに密告するだろう。

それからカトリックはプロテスタントに、事を進めて、週の第七日の代わりに週の第一日を守らない者は皆殺されるべきだという布告を出すよう促す。多数を占めるカトリックはプロテスタントの側に立つ。カトリックは自分たちの力を獣の像に与える。そしてプロテスタントは、かつて彼らの母がそうしたように、聖徒たちを滅ぼすために行動する。だが、その布告が実を結ぶ前に、聖徒たちは神の御声によって救い出される。Spalding and Magan, 1, 2.